

較した場合いずれの数値も高値を示した ( $p = 0.037$ ). 直前のCT・MRIで病変が指摘された41件の内訳は(重複含む), リンパ節18件(PET正診率94.4%, 以下同様), 腹腔内11件(90.9%), 肝7件(100%), 子宮・膣5件(80.0%), 肺5件(80.0%)であった. 一方直前のCT・MRIで病変が指摘されなかった14件のPET正診率は71.4%であり, PETで腸間膜・腹膜病変を同定可能であったケースを2件認めた.

【結論】PET・PET-CTによる診断では, CT・MRI検査と比較した場合に, 特に偽陽性減少に寄与するものと考えられた. またPET・PET-CT検査は, CT・MRIでは検出困難な腹膜・腸間膜病変を拾い上げる際に有用である可能性が示唆された.

## 19 当科におけるRI法単独による乳癌センチネルリンパ節生検(SLNB)の検討

神林智寿子・佐藤 信昭・金子 耕司  
服部 晃典・丸山 聡・野村 達也  
中川 悟・瀧井 康公・藪崎 裕  
土屋 嘉昭・梨本 篤・田中 乙雄  
県立がんセンター新潟病院外科

2001～2008年でSLNB目的にリンフォシンチグラフィを施行した乳癌症例1497例を対象とし, RI法単独での精度と長期成績を検討した. 術前化学療法症例(NAC)113例も含む. 平均年齢53歳, 観察期間中央値43M(1～95M).

【結果】SLNBのみでの終了症例は1008例(67.3%), 腋窩リンパ節郭清(Ax)移行例は489例(32.7%). Ax移行例は①リンフォシンチグラフィでhot nodeの描出なしが102例②術中同定不能が54症例③病理迅速診断で転移陽性が273例, その他43例. ①と②の合計は156例で, 真の同定率は89.6%であるが, 前期と後期では85%, 94%と後期4年間で改善がみられた. (NAC症例のみの同定率は77.8%で, 奏功率別でみると, c-CR 90.3%, PR 77.8%, SD 68.8%, PD 42.9%であった.) 偽陰性率は5.7%, non-SLNにのみ転移陽性21例(2%)で, SLNBの長期成績は,

同側腋窩のみの再発が5例(0.49%), 遠隔転移が32例(3.1%)であった.

## 20 高齢者(80歳以上)肺癌に対する手術治療成績

北原 哲彦・小池 輝明・大和 靖  
吉谷 克雄・斎藤 正幸・土田 正則  
渡辺 健寛・金沢 宏・諸 久永  
富樫 賢一・古屋敷 剛・吉井 新平  
青木 正・井上 政昭・林 純一  
新潟呼吸器外科研究グループ

【目的】本グループに登録された80歳以上肺癌手術例につき, 術後合併症と成績につき検討した.

【対象】2001年から2008年までに, 本グループに登録された肺癌手術例5119例のうち, 手術時年齢が80歳以上であった401例を対象とした. 男性271例, 女性130例で, 年齢は80～92歳(中央値81), 術式は葉切247例, 区切45例, 部切104例, 試験開胸4例であった. 病理病期は, 0期2, I期328, II期27, III期41, IV期3例であった.

【結果】手術死亡は1例(0.24%), 在院死亡は4例(1%)で, 死因は肺炎3, 呼吸不全1, 脳梗塞1例であった. 術後合併症は, 80例(20%)に発生した. 内容は, 肺漏, 不整脈, 肺炎, 譫妄, 呼吸不全, 気管支瘻, 気管支喘息発作, イレウス, 間質性肺炎, 低酸素血症などが多かった. 術後5生率は54.1%であった.

【結語】80歳以上の高齢者肺癌手術は, 合併症発生率はやや高いが, その治療成績はほぼ満足できるものであった.

## 21 食道癌術後骨転移症例の検討

市川 寛・小杉 伸一・羽入 隆晃  
石川 卓・矢島 和人・神田 達夫  
畠山 勝義

新潟大学医学総合研究科  
消化器・一般外科学分野

【背景と目的】食道癌術後血行性再発はリンパ行性再発と比較して予後不良であるが, 転移臓器